

京の博物館

目次

巻頭言……………	1	トピックス……………	6
おこしやす		京のかるちゃーすぽっと「ひと・もの・わが館自慢」…	8
・朝日新聞京都工場……………	2	美術館・博物館と私……………	11
・京北さんさと民俗資料室……………	4	ティータイム……………	12

関西から

文化力
POWER OF CULTURE

巻頭言

こだわりを披露する博物館・美術館

漫画家・京都精華大学マンガ学部教授 竹宮 恵子



私にとって博物館・美術館はマニアなものであり、そこに行けば“真髄”がわかるものと考えています。デパートなどでも美術展をはじめとした展覧会を開催していますが、私の場合、よほど興味のあるものでない限りは見に行きません。私の中で

は、映画やクラシックのコンサートに行くと同様に博物館・美術館は“特別な一日を過ごせる場所”となっているからです。展示されている作品はもとより、調度品や建物全体、そして街そのものの雰囲気などが調和して、展覧会が形成されているべきだといっても過言ではないと思います。

旅行の途中に期待していなかった博物館に驚かされた事もありました。ドイツを旅行中にフランクフルトにある文豪ゲーテの生家を改修した博物館「ゲーテハウス」にふらっと立ち寄りました。代表作の「ファウスト」や「若きウェルテルの悩み」などが生み出された部屋をはじめ、まさにそこに文豪ゲーテが生活しているような生活感までが、再現されていました。実はこの博物館は火災にあったのですが、修復後も当時の瓦やゆがんだガラスまでこだわりを持って再現したものだそうです。こういった例でもわかるように、ヨーロッパの博物館や美術

館は徹底されていると思います。小さな博物館でもこだわりをもったものも多く、美学的考え方がしっかりしていると感心したものです。

マンガ家の仕事も博物館と共通している事があります。マンガを描く仕事も博物館・美術館と同じように“こだわり”を披露するものだと思います。

私が教えている京都精華大学の学生には常々“こだわり”や“個性”といったものをどれだけ自分の中に貯め込めるか、それを表現できるかが勝負だ」と教えています。読み手に迎合したウケ狙いの作品では通用しません。大学生活の4年間でマンガを描く上での技術だけではなく、こういった事をどれだけ感じとれるかが重要と思います。

昨年、京都精華大学が地元龍池学区、京都市と共同で開設した“京都国際マンガミュージアム”には多くの方々に来館いただき嬉しい限りです。このミュージアムは世界的に見ても、めずらしい博物館だと思いますし、京都の中心地で交通の便は最高です。何より地域の方々の愛情を集め、当時のままのたたずまいを残した昭和初期の元小学校の建物がすばらしく、最高の条件がそろっています。マンガミュージアムも多くの方々から“特別な一日を過ごせる博物館”と認めていただけるよう、こだわりをもって徹底してマニアなところを見せてほしいですね。

地域とともに歩み、 幅広い市民に愛される工場を目指して

朝日新聞京都工場



北西面外観

万葉集にも詠われ、平安時代には貴族の別荘地ともなっていた京都・伏見は、近代になってからも寺田屋騒動や鳥羽伏見の戦いなどの舞台となり、当時をしのばせる神社仏閣や史跡が数多く残されています。

一方、古代から交通の要衝として発達してきたこの地は、今も国道1号線及び24号線、名阪高速道路、第2京阪道路、京滋バイパスなどの道路網が整備され、大阪府や滋賀県、北陸方面への移動・物流に恵まれた立地条件にあります。

こうした立地を生かして、多くの日本を代表する先端企業が本社を構えています。

また京都市も、伏見区を中心とする市南部を高度集積地域と定め、積極的に企業誘致を行っています。

朝日新聞京都工場は、このような歴史・文化と最先端技術が一体となった地で、2004年7月、全国20番目の工場としてスタートしました。高速の新聞印刷機械を設置すると共に、環境対策にも積極的に取り組み「地元で愛される工場」を目指しています。

● 最新鋭技術の導入

工場は、京阪電鉄京阪本線中書島駅から西へ約1.2キロ（徒歩約15分）、外環状線と新堀川通の交差点より西へ約100mの地点にあります。

敷地面積は約2,700坪有り、3台の新聞印刷機が稼働し朝刊約43万部、夕刊27万部を印刷しています。

京都工場の稼働により、京都市のほぼ全域に最新ニュースが、さらに、石川、福井、滋賀の各県にも、より早く新鮮な情報を届ける事が可能になりました。

工場には、朝日新聞社初となる最先端技術や新鋭機を導入しています。

まず主力の新聞印刷機ですが、40頁を同時に印刷しその内16頁までカラー印刷が可能となりました。

印刷速度は、1時間に最大18万部、つまり1秒間に50部というシャフトレス超高速機を導入しています。

シャフトレス機構とは、小さなモーターを電氣的に同期させ稼働する技術です。この新技術を採用した結果、大幅に騒音、振動が少なくなりまた電力消費量も下げる事が可能になりました。

さらにCTP製版システムを本格導入しました。

CTP (computer to plate) とは、本社から送られてきたデータを直接印刷の元になる原板に焼き付ける新しい方法です。

この方法を導入する事により、従来行っていたフィルムを現像する工程が省け、より短時間で印刷する事が可能となり、フィルム自体を廃棄処理する必要がなくなりました。

工場全体を生産管理システムが管理し、立体倉庫から搬送し輪転機に装着するまで、自動化されています。

さらに、印刷が終わって新聞を折りたたみ、数を数えて、宛名を付けて梱包しトラックに積み込むまでの工程も完全にシステム制御されています。



2階管制室

● 地域に配慮した環境への取組

江戸時代から酒造りが盛んである伏見は、良質の地下水が豊富にわき出る地であり、また伝統の京野菜作りが行われています。

その為、工場の環境対策は最新の注意を払って取り組んでいます。

印刷用インキも従来の鉱物油から自然に優しい大豆油に置き換えた大豆油インキを使用し、揮発性有機化合物を取り除いた環境対応型インキとなっております。

新聞を運ぶトラックは低公害の圧縮天然ガス車を初め、粒子状物質を大幅に低減するディーゼル車を導入し、京都市内向けの輸送トラックはすべて低公害車になりました。

次に販売店（ASA）と連携して古紙のリサイクルシステムの確立や最近では梱包用のフィルム、バンドの回収・再生に取り組んでいます。

また、工場敷地内の照明についても、工場近辺の田畑に悪影響を及ぼす事のないように、高さ1m以下に制限しております。

さらに、工場敷地内に降った雨水までも農業用水路等に流れないように管理しています。



印刷用インキの展示（読者ホール）

● 地域に密着した愛される工場へ

京都工場では、「地域とともに歩み、幅広い市民に愛される工場」をコンセプトに掲げ、朝日新聞印刷工場のモデル工場を目指し、見学者の受け入れを積極的に行っています。

年間の見学者は、約5,000名であり、小学校の社会見学からご家族での見学と幅広い世代の方に見学に来て頂いています。

見学では、まずご来場していただいた後、記念撮影をしていただきます。

その後、3階の読者ホールにて、新聞が作られている過程（取材、編集からご家庭への配達まで）を鑑賞、またホールに展示されているパネルを見ながら、朝日新聞社の歩みや昔使用していた活字など、実物の展示



見学風景

品を説明します。

2階の見学コーナーでは、印刷の方法や、カラー印刷の仕組み等をやさしく説明します。

工場内では、大型の高速輪転機で実際に新聞を刷る様子や、自動化された梱包作業を見学していただきます。

1階では、給紙設備や紙庫から自動搬送台車ロボットで運ばれている様子をガラス越しに見学していただけます。

見学の記念として、撮影した写真を掲載した見学者新聞をプレゼントしています。

工場が生まれてまだ3年ですが、これからも市民の皆さんに愛される工場を目指してまいりますので、ご遠慮なくお越しください。

朝日新聞京都工場
工場長 藤江 弘明



夕刊印刷見学

所在地/〒612-8243

京都市伏見区横大路下三栖城ノ前町23-3

TEL (075) 603-3213 (見学係)

交通/京阪「中書島」より徒歩15分

見学時間/12:10～、13:50～（約70分程度）

夕刊印刷を見学頂きます

見学日/毎週月曜日～土曜日

休館日/日・祝・年末年始

※団体・個人とも要予約（電話）

昔の道具たちに出会える

京北さんさと民俗資料室



「京北さんさと民俗資料室」全景

京北さんさと民俗資料室は、京北ふれあいセンター内にある農林道具や生活民具の展示施設として平成17年に開館いたしました。館内で展示されている民具は、身近な素材を伝統的な技法で製作し、簡素平易なものが多いのですが、それを作る技術や使用法には長い年月をかけて培われた知識や生活意識が刻まれています。近年、伝統的な民具の多くは姿を消しましたが、そもそも民具は生活の必要から生まれた身の道具であり、不断に改良が加えられ、その必要性が失われたとき破棄されていくものです。民具を学ぶということは単なる懐古趣味にとどまるだけではなく、そこに生きた人々の生活の過程を知ることにつながります。また、その道具がいつどのようにして生まれ、その技法が現代にどのように受け継がれているかを知ることは、今後、我々が道具や技術といかにして係わっていくかを知る指針を与えてくれます。当館は、この地域が水運を利用して平安京の宮都造営や寺院建立の用材供給地として林業を主体に発展してきたことから、山林道具を中心に農具や民具全般を展示しています。

● 前挽鋸

材木から板を挽くときに使われた鋸です。鋸の初見は、鉄器が広く普及する古墳時代ですが、当時の鋸は横挽きが主で細工用程度の小さなものでした。仏教建築が盛んになる飛鳥・奈良時代になると大きな板の需

要が高まりましたが、前挽鋸が登場するまでの板作りは、材木を木目に沿って縦割りにし、表面を手斧や槍鉋で削り出していました。しかし鎌倉時代になると、縦挽用の大鋸(おが)が現われ、木目に関係なく挽割板が作られるようになりました。初期の大鋸は、H型の木枠に帯状の鉄歯をつけ、反対側に紐をかけて張りをもたせたもので、2人が材木を挟んで押し引きする形式のものでした。これによって規格材の板の加工が可能になり、やがて作業側だけに鋸歯がつき一人挽きタイプの大鋸が登場します。手前に挽くことから前挽鋸と呼ばれています。前挽鋸は、歯の間隔が広く始めの切り込みは難しいが、鋸身に幅がありほぼ自動的に平面に挽くことができます。この鋸で板を切り出す作業やその職人をも木挽きといい、鋸挽きの木屑のことを大鋸屑というのもこのためです。

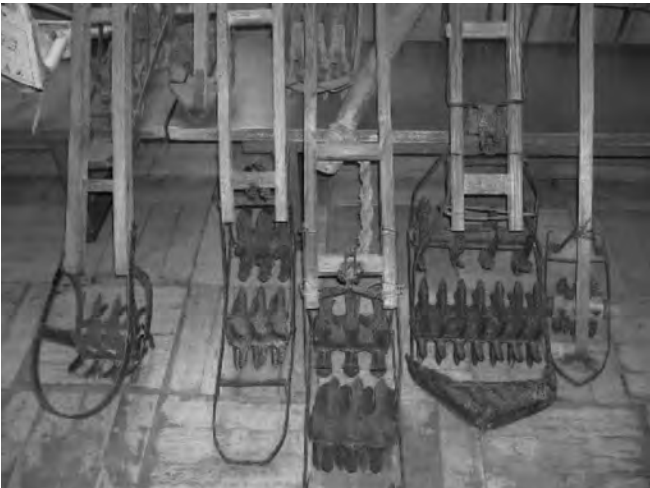


展示されているいろいろな種類の「前挽鋸」

● 田打車

水田耕作の中耕や除草に使われた中耕除草器です。取っ手を押して歩きながら放射線状に取り付けた鉄の爪を回転させて稲株の間の雑草を抜き取り、耕作土の攪拌も行います。近畿地方では、明治時代初期には使われていました。それまでの中耕除草作業は、雁爪を

使うか、素手で行っていました。雑草の成長期である夏の炎天下に前かがみになって這うようにして行うこの作業は、農家にとって最も苛酷なものでした。しかし田打車の発明で、それまでに比べて効率が数倍向上したうえ、上体を屈めることなく行うことができるようになりました。また、苗の植え方もそれまでの均等植えから田打車での作業がしやすい正条植えへと変化していきました。初期の田打車は、木枠に爪車が1つだけのものでしたが、鳥取県の中井太一郎氏らによって改良が加えられ、二連式や三連式のもの、また、先にフロートをつけて土の中に沈むのを防ぐ工夫がなされ全国に普及しました。これらは昭和40年代に除草剤が登場するまで使われていました。



● 足踏脱穀機

足踏式による脱穀機は、それまでの「千歯抜き」による脱穀方法とは全く違った新しいタイプのものです。V字形やU字形の鉄製の抜き歯を千鳥型に取り付けた胴を回転させ、それに両手にもった稲束の穂の部分当て、抜き歯が籾を打つ力を利用して脱穀します。動力は手前下方の足踏み板の往復運動がクランクを介して抜き胴を回転させる構造になっています。この方法は、後に現われる動力脱穀機よりも当たりが柔らかく籾を傷めないために、種籾の採種用にその後も使われました。この脱穀機は、明治43年に山口県の福永章一氏が発明したとされていますが、ほぼ同時期に広島県の河野駒一氏らも製作するなど、相前後して各地で作られました。この新しい脱穀の方式は、労力を大幅に軽減したばかりか、後にエンジンを使う脱穀機や現在の歩行型の刈取り脱穀機であるコンバインへと受け継がれています。

● 鍬

鍬は我が国の代表的な農具で、耕起、碎土、地均し、畝立て、土よせ、除草など多用途に用いられます。縄文期には土堀用の股木の柄をつけた石鍬があり、弥生期に水稻耕作が普及すると木製の平鍬が、また古墳時代には鉄の鍬先が登場しますが、一般に鉄製農具が普及するのは、農具生産を職業とする野鍛冶が現われる鎌倉時代以降のことです。この時代、牛馬を使う犁が登場すると、鍬は深く耕作するものから犁いた土塊を粉碎する打鍬の形式へと変化します。さらに江戸時代になると、備中鍬や万能鍬などの畑用の鍬が普及します。鍬は、使用方法では引鍬、打鍬、打引鍬、地域別では野州鍬、肥後鍬、遠州鍬など、形態からは風呂鍬、唐鍬、窓鍬、股鍬に分類されます。この中でも一般的なのは風呂鍬で、平鍬や台鍬ともよばれて木柄と風呂台(鍬台)と鍬先からなっています。明治以降、鍬はその地方の耕地や地形、土壌に適した形態へと徐々に変化していきます。柄と鍬台の角度は約65度から80度ですが、山間地などの傾斜地では鋭角になる傾向がみられます。現在の鉄鍬の形式は、明治から大正期に普及したもので、鍬先が鉄板で作られ、刃先に鋼がつけられています。

京北さんさと民俗資料室
館長 人魯 亨



所在地／〒601-0251

京都市右京区京北周山町高梨子12番地

TEL (0771) 52-0774

交通／JRバス「周山」より徒歩5分

開館時間／9:00~17:00

休館日／土日祝日・年末年始

料金／無料

※団体のみ要予約(電話)

平成19年度「京博連総会」開催

去る6月21日(木)平成19年度「京博連総会」が、池坊短期大学こころホールにて上原任京都市副市長、門川大作教育長等を来賓としてお迎えし、盛大に開催されました。

当日は、榎本頼兼市長からの祝辞をご披露(上原副市長代読)いただきましたあと、樋口隆康会長による開会挨拶、永年勤続者へ京博連表彰状、市長感謝状及び記念品が贈呈されました。

議事では、「18年度事業報告」に続き、「19年度事業計画案」が提出され、議案はいずれも満場一致で承認されました。例年開催されている博物館連続公開講座、ミュージアムロードの開催の他に、今年度は京博連設立15周年ということで、「京都市内博物館ガイドブック 京のかるちゃーすぽっと」の改訂等、記念事業も含めて加盟館の積極的な協力のもとに実施していくことが確認されました。

総会終了後、おろまちアートコートにていけばな体験研修を実施、また同日いけばな資料館も開館していただき、充実した研修を受けることができました。

池坊短期大学、いけばな資料館ならびに博物館ボランティア「虹の会」の皆さんの御協力の下、15年目の大躍進に向け期待高まる総会となりました。



栄えある御受賞 お祝い申し上げます

永年勤続表彰受賞者

- | | |
|----------|---------|
| □京都市動物園 | 長尾 充徳 様 |
| □京都府立植物園 | 荒木 康裕 様 |
| □元離宮二条城 | 内田 仁 様 |

新役員の紹介

今回の役員改選は、武内裕哉監査、菊川文庶務(事務局長)の退任に伴うもので、任期は平成20年6月30日までです。

- 稲垣繁博監査
- 宮田英喜庶務(事務局長)

○京博連職員研修交流会○

京博連加盟館職員の研修と相互連携を目指すため、今年度も平成19年9月4日(火)に職員研修交流会を実施しました。京都ロイヤルホテル&スパにて、木村幸比古京博連相談役による「博物館学芸員としての成果『龍馬暗殺の謎』」と題しての御講演の後、交流会を開催しました。

今後も、継続して実施しますので、自己研鑽・他館の学芸員の方との交流のため、是非多くの方に参加していただきたいと思っております。



京都市博物館連続公開講座

毎年、多数のご参加がある連続公開講座です。全5回ですが、現在決定している2回についてお知らせします。応募方法については平成19年9月～2月の間、市民しんぶん等に掲載します。

①10月1日(月) 14:00～16:00

京都国際マンガミュージアム(中・烏丸通御池上ル)

「マンガと子どもの出会い方ーその場所と媒体ー」

講師：吉村和真氏(京都国際マンガミュージアム研究統括室長, 京都精華大学准教授)

②11月13日(火) 14:00～16:00

京都市美術館(左・岡崎円勝寺町124)

詳細：講義と特別展「京都と近代日本画」作品鑑賞

*詳細・応募方法は、市民しんぶん等でお知らせします。

第13回ミュージアムロード 企画委員会発足！！

第13回ミュージアムロードの開催に向けて、下記の皆さんに企画委員に就任していただき、第1回会議を9月7日(金)に開催しました。各加盟館におかれましては、趣旨をご理解のうえ、ミュージアムロードへのご参加をお願い致します。

<企画委員>敬称略

赤尾 栄慶(京都国立博物館), 大野 照文(京都大学総合博物館), 川勝 美早子(島津創業記念資料館), 木村 武仁(霊山歴史館), 榊原 吉郎(京博連相談役), 永富 愛(益富地学会館), 福島 恒徳(花園大学歴史博物館), 宮田 英喜(京博連庶務), 吉川 右香(細見美術館), 吉見 博史(京都市教育委員会生涯学習アドバイザー)

京博連設立15周年記念式典開催！

来る12月5日(火)18:30から、京都市内博物館施設連絡協議会設立15周年記念式典を京都ホテルオークラで開催します。15周年を記念して発行する「京のかるちゃーすぽっと」改訂版のお披露目も予定しています。詳細については後日、御案内いたしますので、皆様の御参加をお待ちしています。

新規加盟館の紹介

◆ 泉涌寺宝物館心照殿

〒605-0977 京都市東山区泉涌寺山内町27 TEL: 561-1551

URL <http://www.mitera.org/>

◆ 京都花鳥館

〒615-8296 京都市西京区松室山添町26-24 TEL: 382-1301

URL <http://www.kachokan.jp/>

◆ 京都御苑

〒602-0881 京都市上京区京都御苑3 TEL: 211-6348

URL <http://www.kyotogyoen.go.jp/>

◆ 松本明慶佛像彫刻美術館

〒602-8004 京都市上京区下長者町通室町西入る西鷹司町16プレパレス内

TEL: 432-6010

壬生寺文化財展観室(壬生寺歴史資料室)

学芸員／松浦 康昭

わが館を紹介

壬生寺文化財展観室は、壬生寺が所蔵する文化財を展示するため、壬生寺本堂の一角に昭和45年(1970)に開設されました。しかし、常時に開館することが出来なかったため、平成14年(2002)、文化財展観室の分室として壬生寺阿弥陀堂の地階に、壬生寺歴史資料室が新設されました。

寺宝の他、壬生寺の伝統芸能「壬生狂言」や新選組に関する資料やパネルを展示しています。展示の寺宝には、佛像の他、明治時代に至るまで壬生寺が勅願寺であった縁から、皇室ゆかりの品々も含まれています。

なお、壬生寺近隣には新選組屯所であった旧前川邸と八木邸があり、壬生寺境内ではその当時、新選組隊士たちが剣術や大砲の訓練を行ったり、沖田総司が子供を集めて遊んだりしていました。

また、境内の阿弥陀堂は、新選組隊士墓所「壬生塚」に隣接しており、別途参拝料で、近藤勇の胸像や新選組隊士の墓碑を参拝できます。



阿弥陀堂



円覚上人

わが館ひと自慢

円覚上人

円覚上人は、鎌倉時代に焼失していた壬生寺を復興しました。以来、中興の祖として崇められています。また、上人は正安2年(1300)に大念仏会を行い、壬生狂言(重要無形民俗文化財)を創始したのです。壬生狂言は創始以来、約700年間、連綿と伝承されており、伝承される演目は現在30番です。また、使用される仮面は約190点、衣裳・小道具は数百点を数えます。

境内北側にある壬生狂言の舞台は、大念仏堂(狂言堂)と呼ばれ、安政3年(1856)に建立された特異な建造物であり、重要文化財に指定されています。上人が創始した狂言は発展を遂げ、多くの文化財を生み出したのです。

館内では、壬生狂言の仮面や小道具などの資料(一部は複製)を展示しており、壬生狂言について理解を深めて頂く事が出来ます。

わが館もの自慢

歯薬師如来像

この像は平安時代の作で、檜の寄木作り、左手に薬壺を持ち、右手は施無畏印を結ぶ姿です。元来は、阿弥陀堂の本尊・阿弥陀如来像の脇佛として祀られていました。現在は館内に展示されている佛像の中心となる形で、江戸時代作の日光・月光菩薩像と共に祀られています。また、その微笑みが「は、は、は」と笑って見えるなどから、いつしか「歯薬師」と呼ばれるようになり、歯の病に霊験あらたかであるとして、京都十二薬師霊場の第四番札所の本尊にも数えられています。



歯薬師如来像

- 所在地/〒604-8821 京都市中京区坊城通仏光寺北入る TEL 075-841-3381
- 交通/市バス「壬生寺道」下車、徒歩5分
- 開館時間/8時30分～16時30分 休館日/2月2日～4日(寺の行事による臨時休館もあります)
- 料金/大人 200円 小学生～高校生 100円
- ホームページ/<http://www.kyoto.zaq.ne.jp/mibu>

東映太秦映画村 映画文化館

東映京都スタジオ管理部映画資料室課長代理 / 佐野 久子

わが館を紹介

昭和57年、東映太秦映画村開村7周年記念事業に「映画博物館」として我が映画文化館は完成いたしました。

1階には日本映画史を彩る30作品の名場面の映像がボタンを押すと見ることの出来る「名作ミニ劇場」、アニメ映画の撮影工程を見ることの出来る「名作アニメ劇場」や、日本を代表する映画監督や俳優の代表作の写真が展示されている「電子映画アルバム」コーナーがあり、他にも映画が出来るまでの工程をパネルで紹介してあります。

2階は映画の発展に多大な貢献のあった個人の遺品やゆかりの品を展示する「映画の殿堂」コーナーの他に、珍しい撮影機の展示や、日本映画の父、故牧野省三の遺徳を偲び映画の創造と発展に寄与した後進の映画人を表彰する「牧野省三賞」コーナーや、数々の賞のトロフィーや日本映画史を代表する映画のステール写真やポスターなども展示してあり、充実した内容となっています。

3階には「映画資料室」があり、ここには映画のポスター、ステール写真、脚本、プレス、ビデオ等10万点を越す膨大な資料が管理してあります。なお、「映画資料室」は一般公開を実施していませんが、事前にお申し込いただければ閲覧も可能です。

利用者の1番人気は大川橋蔵、2番に大映の市川雷蔵が挙がりますが、文化館の映像を見てファンになった方もたくさんいらっしゃいます。

ここ映画文化館をゆっくり見学すると、映画というものは沢山の人が携わって出来ていることがおわかりいただけると思います。



映画文化館



物故映画人 (映画の殿堂)

わが館ひと自慢

開館時のスタッフ

映画村開村(昭和50年)以来、映画文化館を開館するにあたり、資料集め、保管方法、整理を十数名のスタッフが担当し、大変な苦勞があったと聞いています。

そのお陰で、どこに出しても恥ずかしくないものが出来上がりました。その人達こそわが館のひと自慢です。

わが館もの自慢

様々な映画資料

「映画資料室」には東映以外の映画作品もコンピューター管理されており、戦前の映画資料もステール写真1枚から簡単に検索・閲覧できるようになっています。

また、別館の図書室には映画の歴史等の勉強に欠かせない、「キネマ旬報」や、映画の歴史本、映画台本等が揃っており、文化系の学生の方が日々閲覧に来られています。



名作ミニ映画劇場

- 所在地 / 〒616-8586 京都市右京区太秦東蜂ヶ岡町10 TEL: 075-864-7718
- 交通 / 市バス「右京区総合庁舎前」「太秦映画村道」/ JR嵯峨野線「花園駅」
京都バス「太秦映画村前」下車, 京福電鉄嵐山線「太秦広隆寺駅」下車
- 開村時間 / 12月～2月: 9時30分～16時, 3月～11月: 9時～17時 休村日 / 年末
- 料金 / 大人 2,200円 小学生 1,100円 中学・高校生 1,300円

森林総合研究所関西支所 標本展示学習館

支所長／北原英治

わが館を紹介

標本展示学習館は、森林に関わる研究成果を一般に公開するための施設で、パネルや実物資料などを展示しています。2005年3月に新築の木造平屋作りの建物（面積248㎡）としてオープンしました。展示テーマは「里山から奥山まで、森の研究成果を知る」とし、人と森林、生物多様性、環境問題などについて研究成果もまじえて紹介しています。



外観

わが館ひと自慢

すべての研究者とスタッフ

森林総合研究所関西支所は、今年（2007年）創立60周年を迎えました。30名ほどの研究者は、森林植物の生理生態、森林土壌、森林と水・大気、動物の生態・保護管理研究、森林資源の管理、風致景観などの研究の専門家です。運がいいと直接話を聞くことができます。

当所では、近畿・中国・北陸地方を対象に、森林・林業に関する研究を行っています。この地域は、千数百年にわたり「みやこ」が置かれ、優れた林業地がありますが、一方で都市化や社会経済の変化で、里山などの森林の劣化や貴重な森林生態系の断片化が進行しています。今日では自然環境保全や心の豊かさ重視を反映して、森林に対する期待は一層高まっています。そこで、森林の多様な機能が発揮され、自然と人間社会との望ましい関係を見いだすために、研究に取り組んでいます。また、本所（茨城県つくば市）や他の支所と連携しつつ、地球温暖化のように全国的・世界的な問題にも取り組んでいます。



館内

わが館もの自慢

すべての樹木

スギの香りに満たされた館内には、普通は土中に埋もれて見えない孟宗竹の大きな根や、直径1.8mほどの奈良春日山原生林の風倒スギの円盤（400歳）、林業用道具や復元した荷車（はしご車）、森林の二酸化炭素吸収研究のための測定器、シカやクマなどはく製や糞標本、昆虫の標本や食害実物標本、ドングリや種子散布の遊具などがあります。建物の外には、日本万国博覧会（1970年）のタイムカプセルから2000年に一部取り出し人工発芽させたアカマツ、ヒノキ苗木は貴重です。樹高25m近くに伸びたメタセコイア並木、多くの品種の竹林や樹木園の散策も味わえます。



タイムカプセルの木（アカマツ）

- 所在地／〒612-0855 京都市伏見区桃山町永井久太郎68番地 TEL：075-611-1201（代表）
- 交通／近鉄京都線、あるいは京阪電車「丹波橋駅」下車、東へ徒歩10分
- 開館日／平日のみ（土・日曜日・祝日、年末年始を除く） ●開館時間／9時～16時 ●料金／無 料
- ホームページ／<http://www.fsm.affrc.go.jp/renraku/tenjikan/>

京・歴史と今に伝える

京都市博物館ボランティア「虹の会」第2期生
大溝 徳太郎

私がよく通う博物館の一つに、東山を背景に明治期に建造された、フランス風のスマートな雰囲気の赤煉瓦造りの特別展示館・正門が印象的な京都国立博物館があります。

ここで催される年数回の特別展示会も必見ですが、もう一方の平常展示館で企画展示される、特集陳列を楽しみによく訪れます。特に、例年春の雛まつりとお人形展では、東西の雛飾り・御所人形などの京人形たちと出会えます。また、館蔵されている桃山・江戸時代などの染織品・工芸品・絵画などの企画展では、ふだん見られない貴重な品々と出会うことができます。

観覧で少し疲れを覚えたら、広いスペースの前庭に出て、円形の噴水の周りで、しばしホッとした時間を過ごしています。

これからも、これら歴史を伝える展示物に出会えるのを楽しみに訪れたいと思っています。



橋本関雪記念館の見どころ

京都市博物館ボランティア「虹の会」第3期生
新谷 歩美



梅雨明け直後の日差しが眩しい中、橋本関雪記念館を訪れました。

関雪自ら設計した庭園は、しっとりした苔に覆われ、時折通り抜ける風が木々を揺らす大変居心地のよい空間です。池をぐるりと囲むように茅葺きの茶室やアトリエが建てられ、石塔や石仏がところどころ苔むした様子でひっそりと佇んでいます。

なかでも見所は、要所要所に配置された個性的な石です。これは鞍馬近辺に実際にあった石を、関雪自ら番号を記し、記憶に頼って庭園内にそのまま同じように配置したもので、実際に石を据える際「二尺と位置を移し変えたものは無かった」ものだそうです。そして、そのことは関雪の絵に通じるものであり、石や木とびったり呼吸が合った時、「一つの物象を見た刹那、これを描こう、そう感じた時、すでに画はできている」と関雪は述べています。

その関雪の哲学を表すように、ギャラリーにある彼の絵画やスケッチは、一瞬のベストショットを切り取った様に生き生きとしていて、鳥のさえずりや馬のいななき、人々の話し声が聞こえてくるような気がしました。

地球温暖化問題を考えましょう

京都市博物館ボランティア「虹の会」第5期生
伊豆田 眞一

今、地球温暖化問題は世界各国で取り上げられ、温室効果ガスの発生削減が重要な課題となっております。1997年12月に「地球温暖化防止京都会議」が開催され、これを記念して開設された「京エコロジーセンター（京都市環境保全活動センター）」は、如何にして私達が温室効果ガスの削減に取り組んだらよいかを展示し、環境問題の学習や環境保全活動の必要性を考えさせてくれます。

地球温暖化の影響によると思われる氷河の後退、海面上昇、生態系の変化、異常気象の増加等が起こっていることを展示しており、これに対する防止対策としてわれわれが今すぐにでも出来る事として、ゴミの減量、自然エネルギーの利用、省エネ資材の使用、資源の再利用や再資源化等、多くの事柄があることが示され、これを見て、私も自家用車の使用削減等、取り組んでいます。

また、ここで活動していたことによって、多くの来館者とお話することが出来、気付かなかったことを教えられもしましたし、更に温室効果ガスの排出削減に取り組まねば、と考えております。

しかし一家庭だけでは温室効果ガスの削減は微量であり、地域を上げて取り組むことが必要なことも痛感した次第です。





「生涯学習」ならぬ「笑涯楽習」

京都市内博物館施設連絡協議会 相談役

霊山歴史館 学芸課長 木村 幸比古

最近テレビに学芸員が出演しコメントする場面をよく見かける。

専門的な知識も豊富で実に分かりやすく解説しているが、学芸員は博物館に閉じこもらずに、もっとこういった機会に飛び出すべきだと私は思う。

先日、JR西日本ジパング倶楽部の「旅の大学 旅しま専科」の講師を依頼され、引き受けることにした。企画構成から携わり、「西郷隆盛と西南戦争」の旅を三月に組んだ。この旅のパンフレットには講師のプロフィールが掲載される。当然ながら、博物館の知名度は上がり、霊山歴史館の入館者数は6ヶ月連続アップとなり、宣伝効果満点であった。

旅の方は、西郷が没して130年に当たり、それまで史跡巡りの内容であったのを一新、鹿児島4館（鹿児島歴史資料

センター黎明館、鹿児島市維新ふるさと館、鹿児島市立西郷南洲顕彰館、尚古集成館）、熊本1館（田原坂資料館）の博物館見学を加えた。各館の学芸員や解説ボランティア



講座の光景

の方言交じりの解説に、参加者から好評が得られた。

旅は感動がなければ無味乾燥の何ものでもない。そこで西郷は何故、日本人に愛され続けるのか調べてみた。行き当たったのは、銅像にまつわるエピソードであった。

西郷の銅像は3つある。

まず、鹿児島空港近くの構辺町に建つ腕組した像。古賀忠雄作で、京都の清水寺に建てる予定で制作したが、叶わ

なかった。

次に、最も有名なのは上野の山にある浴衣姿で愛犬ツンを連れていた高村光雲の作である。意外にも愛犬は皇居広場の楠木正成の馬を制作した美術学校教官の後藤貞行作だった。

また、鹿児島城山の軍服姿の像は、老若男女から親しま



桂小五郎像前にて

れ、幼稚園児も銅像にペコリと頭を下げる。この銅像の築山を造成するにあたって34,000人の奉仕作業があり、石は対岸の大隅半島から花崗岩550個を運び入れた。2～6kgの小石は仙巖園前の磯海岸から銅像まで6Kmにわたって、小中学生が横一列に並び手渡しで運び、8年の歳月をかけて完成させた。軍服姿は習志野で演習し、雨の中を一晩中、明治天皇を護衛したときの姿であった。

この軍服姿の銅像の秘話を6月、神戸市教育委員会主催の「神戸市老眼大学」で講演することとなった。「神戸空港就航都市シリーズ 西郷隆盛の実像を語る」と題し、神戸文化ホールで午前・午後の2回、3,300名の入場者で、ほぼ満席であった。

内容は、西郷の座右の銘は「敬天愛人」、つまり「人の道はまず天を敬うことである。また、全てを平等に愛する天のように、自分も人を愛する心を持って生きたい」といったものであった。

講演は大成功、「生涯学習」ならぬ「笑涯楽習」であった。

京博連（京都市内博物館施設連絡協議会）とは

博物館施設（以下「博物館」）が、市民の皆さまの「生涯学習の場」としてより良く発展するため、博物館と博物館、博物館と市民が交流、協力することのできるネットワークづくりを目指し、平成4年に京都市教育委員会と市内の博物館や関係団体が連携し発足したものです。【加盟館182館（正会員161館、賛助会員21団体（H19.8.30現在））

発行 平成19年9月

編集・発行者 京都市内博物館施設連絡協議会事務局（京都市教育委員会生涯学習部内）

所在地 〒604-8571 京都市中京区寺町御池上 TEL075-222-3184 FAX075-213-4650

ホームページ <http://www.edu.city.kyoto.jp/shogaigaku/kyohaku.html>

「京博連だより」に対するご意見・ご感想をお待ちしています。